

# かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



国内宣教委員会とカナラップ先生との懇談会

## 2016年 国内宣教カンファレンスのご案内

- ◎開催日:2016年1月5日(火)・6日(水)
- ◎タイトル:「失敗からの回復(副題:主の恵みのお取り扱いの中で)」
- ◎説教者:浜谷勉先生(瀬戸聖書バプテスト教会)
- ◎婦人集会講師:サンディー・パイエット先生(茨木聖書バプテスト教会)、三谷克美先生(平塚聖書バプテスト教会)
- ◎場所:朝霧少年野外活動センター(静岡県富士宮市)
- ◎参加費:2,000円(食事代のみ。交通費は例年通りを補助いたします)

COMING SOON!

1月5日(火)		1月6日(水)	
8:00		朝食	
9:00		婦人集会①	男性子守
10:00		分科会	
11:00			
12:00		昼食	
13:00			
14:00	受付	全体集会①	子供集会
15:00		オリエンテーション	
16:00		婦人集会①	男性子守
17:00			
18:00		夕食	
19:00		全体集会②	子供集会
20:00			
21:00			

このスケジュールは予定です、変更があります。

**【献金先:郵便振替】**  
JBBF国内宣教委員会 00140-2-654375

キリストが私をお遣わしになつたのは、バプテストを授けさせたためではなく、福音を宣べ伝えられるためです。それも、キリストの十字架がおなじくならなかったために、同じばの知恵によつてはなれぬこのじよす。十字架の上では、減びに倒る人々には愚かじありても、救ひを受ける私たちには、神の力じよす。  
(イーハトーチ十七節~十八節)

今から約三十五年前、私が高校三年生だった夏休み、日曜日以外のほぼ毎日を宿題もそっちのけで、愛知県の山間部での訪問伝道に費やしました。その時、その場所では、毎日のように主イエス様を信じる人が起つされました。ふと私は、財布も一枚目の下着も持たずに、その地を巡回伝道する伝道者になりたいという思いを抱きました。そんな当時の情熱を懐かしく思い出しますが、今もう一度、その思いを持つて伝道に励みたいと思っています。

さて、その山間部での伝道で、移り変わついく日本の姿を見ました。それは、翌年、またその翌年と顕著に表れました。人々の福音に対する態度が確実に頑なになつて行く姿です。

(1頁の続き)  
何がその山間部に起つたのでしょうか。それは都会化と異端の働きでした。それまでNHK程度しか映らなかつたテレビが、都会と変わらないチャンネル数になつていき、ジオも普及してきました。そして、訪問する人々で聞かれる「先日も聖書を勉強しませんか?」と言つて来られましたよ。」という言葉が私たちを待つていました。

あれから三十五年。世の中の変化は速度を増し、グローバル化の影響と金融投資が個人にまで広がりました。自分たちの二十代の時には、老後の心配などはないで将来を目指しましたが、最近の若い人たちとはそうではありません。そして若いも若さも、世の中もクリスチヤンも経済の心配をしています。

「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすればそれに加えて、これらのものはすべて与えられます」という信仰はどう行く行つてしまつたのでしょうか。

福音宣教。それは十字架と復活を語れば終わりのものではありません。それは神様と和解し、義とされた私たちが、神様を信頼し、主イエス様と共に歩む希望と喜びを、身をもつて伝えて行くことではないでしょうか。

## 祈りの課題

「かいたく」誌では、今後、年に2回ほど、伝道所の祈りの課題を掲載していきます。今号では、五十音順に7つの伝道所を掲載いたしました。他の伝道所は来年の号に掲載します。



①10月20日に子宮癌の手術を受けた石橋和子姉(全盲の治療師)の回復と今後の通院のため(この祈りはご本人からの要請によるものです) ②秋からクリスマスへと予定されている音楽を通しての証の機会が用いられますように ③新しい会員が加えられ、独立できますように



①献身をもって福音宣教と牧会の働きに専心できるように ②ご婦人3名、男性2名の求道者が礼拝出席中。真の悔い改めと信仰の導きのために ③9月20日、岡山伝道所の牧師に就任。主を愛し、群れを正しく主に導き、主の教会を建設することのために



①求道者が救われてバプテスマを受ける決心ができるように ②各集会に新来者が加えられるように ③クリスチヤンファミリーが与えられるように ④救いの決心者20名与えられるように ⑤日曜学校に生徒が与えられるように



日頃より、温かいお祈りと励まし、ご支援を頂いておりますこと、心より感謝いたします。①伝道季刊新聞「キリストの福音」の配布の働きのため ②会堂取り壊しに伴い、新しい会堂の導きのため ③日曜学校や礼拝への新来者のため ④独立教会形成に向けての良い基礎のため ⑤牧師家族の健康と働きの支えのため



①2013年3月会堂土地建物購入感謝 ②2014年4月伝導師の挙手式感謝 ③教会の独立のため ④クリスチヤンホーム2組以上与えられるように ⑤日曜学校児童数が増えるように ⑥1人の姉妹の転籍、2人の兄弟のバプテスマが実現するように



①地域での伝道が用いられ、礼拝出席者が更に増やされて、救われる人が起こされるように ②バイブルスクールの学びによってそれぞれが靈的な成長に導かれるように ③独立に向けて堅実な歩みのために



①日本人同僚者が与えられるように ②経済的に自立できるように ③献身者が起こされるように ④求道者の来会と救い ⑤児童伝道の祝福、子供の救いと成長 ⑥他教会からの信者のバプテスマや転会のため ⑦信者との学びと成長



# 国内宣教委員会訪問記

白井 清之

を派遣して下さるようにとの要請を致しました。

若葉教会ではカネラップ師との交わりが中心になりましたが、教会の3階建ての素敵な会堂を拝見し、それが2年前に主の嬉しい御業によって備えられたことをお聞きして御名を崇めました。

## 二・横浜聖書バプテスト教会

**初めに**  
国内宣教委員会は、開拓伝道所の励ましと交わりの為に、9月28日～29日の日程で関東にある諸教会を訪問しましたので、そのご報告を致します。

## 一・若葉聖書バプテスト教会

私達はまず、ジエームズ・スマス師の牧会する若葉聖書バプテスト教会を訪ねました。B B F I の宣教委員長であるジョン・カネラップ師が、前日に若葉教会で行われた宣教大会のメッセンジャーでしたので、カネラップ師との交わりも兼ねていました。また、調布教会の協力牧



つくば市中心部への伝道を如何に進めて行くべきかという祈りとビジョンを持つておられます。

**三・千葉ニュータウン 聖書バプテスト教会(佐倉聖書バプテスト教会伝道所)**

私達が、つくば市から印西市にある千葉ニュータウンの伝道所に着く頃は、日もすっかり落ちて暗くなっていました。また、神田師は、日中に特別支援学校の介助員の仕事をしておられる事情から委員の訪問も夕方となつた次第です。伝道所は、伝道開始以来13年を経過しましたが、最初の借家は条例によつて教会の看板を掲げることのできない事情があり、9年前に現在の場所に移転して来られました。現在の会堂は、千葉ニュータウン市街の端に位置し、幹線道路の沿道の目

立つ場所に建っています。しかし、教会の前には一台分の駐車スペースしかなく別の場所に二台分の駐車場を借りておられます。ですが、車で来会される方にとって駐車場がないことが課題になっています。また、礼拝堂は、八畳二間を縦に使用しており、20脚ほどの椅子を並べる広さがありますが、但し、礼拝出席者は、伝道者家族の他に一人の壮年の兄弟とその他は不定期に来られる方のようです。これまでの教会への来会者は、チラシ、ホーメーバージ、看板を見て来られた方々でしたが、継続して出席される方が少なく、まずは礼拝に継続して来られるレギュラーメンバーが与えられるよう祈っています。また、先生の中学生になられたお子さんがバプテスマを受けるように願っています。私達は、実際に先生方が伝道は、今から40年以上前、調布の開拓伝道の時代から既に祈りのうちにあり、その後の祈りは、5年前に八王子のセミナーへウスの一室を借りての伝道開始によって向いました。



## 四・八王子聖書バプテスト教会(調布バプテストテンブル伝道所)



## 六・柏伝道所 (船橋聖書バプテスト教会伝道所)



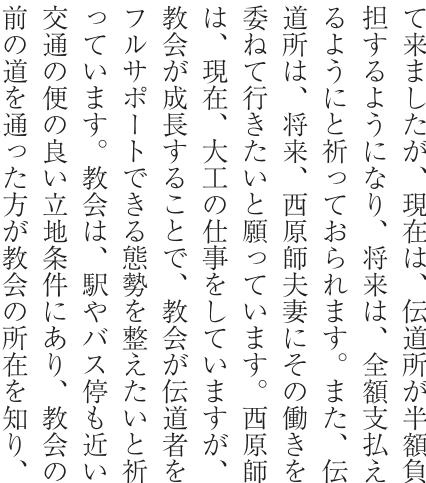
に1人も救われませんでした。初めは、教会員宅を集会の場としていましたが、新しいステップとして一軒家を借り、カラン師に住んで頂くようになりました。徐々に出席人数と活動範囲が広くなり、借家を2か所移転しながら、日曜学校と聖日礼拝を毎週できるよう祈り続けました。その後、習志野バプテスト教会内の根本主義バプテストセミナリーで学んだ青島伝道師に、流山伝道を引き継ぐ重荷が与えられました。現在、日曜礼拝と水曜日の婦人集会は、丸山牧師が責任を負い日曜学校・婦人集会などを青島伝道師夫妻とカラン宣教師が協力して続けておられます。そして、今年8月に新しい借家に移転し、伝道師家族がそこに住むようになりました。新しい伝道拠点は、東武野田線・初石駅から徒歩2分ほどの好立地点にあり、3階建てで部屋数も多く、礼拝堂も広く、沢山の椅子も並べることができます。伝道所の教会組織と自立のためにお祈りください。

三沢師夫妻が伝道の為にお借りした家は、流山伝道所から車で20分ほど柏市にあります。その場所は、閑静な住宅が整然と立ち並ぶ中であり、玄関には、札のみで教会の看板は見当たりませんでした。後でお聞きしますと、教会の看板は、家主さんの許可が下りないので、掲げることができないとのことでした。私が到着すると三沢師ご夫妻が迎えました。後でお聞きしますと、教会の看板は、和子師は大きな怪我をしてくれましたが、和子師は大きな怪我を笑顔で迎えて下さいました。しかし、怪我をなされた時の状況をお聞きすると、主の恵みと奇跡の中で守られた事を改めました。



## 五・流山伝道所 (習志野バプテスト教会伝道所)

昨年に続き、国内宣教委員会の伝道所訪問記をここに記しますが、かいたく誌に掲載する記事は、僅かな時間と限られた交わりを通してお聞きしたことであつて、教会のほんの一部の報告に過ぎません。従つて、それの教会においては多くの靈的成長とその地域の伝道のために婦人集会を始めました。しかし、10年間



違ひ、先生なりの伝道の方針があることを感じました。私達は、三沢師ご夫妻と着きました。

**終わりに**

去年に続き、国内宣教委員会の伝道所訪問記をここに記しますが、かいたく誌に掲載する記事は、僅かな時間と限られた交わりを通してお聞きしたことであつて、教会のほんの一部の報告に過ぎません。従つて、それの教会においては多くの靈的成長とその地域の伝道のために婦人集会を始めました。しかし、10年間

実現しました。ラージャス師は、その後セミナーハウスでの伝道の限界を感じて3年前に現在の会堂への移転を決断しました。現会堂は以前イタリア料理のレストランとして使用しており、50人以上の収容可能な礼拝堂と厨房が備えられています。家賃は、これまで母教会が負担していましたが、現在は、伝道所が半額負担するようになりました。将来は、全額支払えるようとに祈つておられます。また、伝道所は、将来、西原師夫妻にその働きを委ねて行きたいと願っています。西原師は、現在、大工の仕事をしていますが、教会が成長することで、教会が伝道者をフルサポートできる態勢を整えたいと祈っています。教会は、駅やバス停も近い交通の便の良い立地条件にあり、教会の前の道を通った方が教会の所在を知り、それを機に近所から来られるようになります。伝道の方法は、路傍の方もおられます。伝道の方法は、路傍の様々な理由で転出する方がおられる等、しばらく伝道者としての試みと葛藤の日々を過ごして来られました。その様な中で福田師夫妻は、現在、教会周辺の住宅街、及びその周囲に昔から居住しておられる元の方々の来会を願つて、戸別訪問などを続けておられ、賛美集会、地区集会、伝道集会などを積極的に計画しています。また、今後、大学生伝道や

